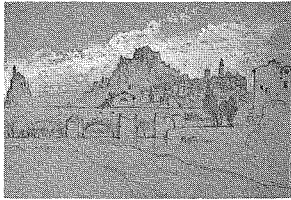


展示室1 ラスキンと世紀末美術



ジョン・ラスキン  
「オーヴェルニュの丘」

ジョン・ラスキン（1819～1900）は、当時最も影響力のあった芸術批評家で、画家でもありました。彼は産業革命がもたらした機械文明を批判し、芸術が生活と深く結びつた手仕事を重んじました。

アーツ・アンド・クラフツ運動を展開したウィリアム・モリス（1834～1896）は彼の思想から多くを学びました。また、バーン＝ジョーンズ（1833～1898）をはじめラファエル前派の画家たちは、人々が信仰に生きた中世への回帰を目指すラスキンの理想を芸術の規範としました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス
ジョン・ラスキン	オーヴェルニュの丘	鉛筆、ホワイトボディカラー・紙	
ジョン・ラスキン	『ヴェネツィアの建築』より	1887刊 エッチング、リトグラフ、他	紙/ポートフォリオ
	図版2「アラビア風の窓 カムポ・サンタ・マリーア・マテル・ドミニ」		
	図版9「ビザンティンの廃墟 リオ・デ・カ・フォスカリ」		
	図版11「扉の頭部 カ・コンタリーニ・ポルタ・ディ・フェットロとカムポ・サンタ・マルゲリータの家」		
	図版15「バラツォ・ドゥカーレ ロッジアのルネサンス期の柱頭」		
『ジャーム』第1巻～第4巻より		1850年刊	エッチング・紙
ウィリアム・ホルマン・ハント	トマス・ウルナー作「わが美しい女性」「わが死せる女性」のための挿絵		
ジェームズ・コリンソン	ジェームズ・コリンソン作「幼子イエス」のための挿絵		
フォード・マドックス・ブラウン	ウィリアム・マイケル・ロセッティ作「コーデリア」のための挿絵		
ウォルター・ハウエル・デヴァレル	ジョン・L・タパー作「ヴィオラとオリヴィア」のための挿絵		
サー・エドワード・コーリー・バーン＝ジョーンズ(画)、ウィリアム・モリス(刻)			
	『クビドとプシュケの物語』(ケルムスコット・プレス)からのブルーフ版	1860年代	木口木版・紙
	・黒い水		
	・黄金の羊の毛を持ち帰る		
	・カロン(黄泉の国の川の渡し守)への渡し賃		
サー・ジョン・エヴァレット・ミレイ	自画像		エッチング・紙
サー・ジョン・エヴァレット・ミレイ	ジェームズ・クラック・フックの肖像		エッチング・紙
アルバート・ジョセフ・ムーア	黄色いマーガレット	1881	油彩・キャンバス
ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス	フローラ		油彩・キャンバス
ダンテ・ガブリエル・ロセッティ	マドンナ・ピエトラ	1874	パステル・紙
フォード・マドックス・ブラウン	牢獄のジャコポ・フォスカリ	1869	チョーク・紙
『ダルジールの聖書ギャラリー』(原画:フォード・マドックス・ブラウン、サー・フレデリック・レイトン、他/版刻:ダルジール兄弟)より10点			木口木版・紙
サー・エドワード・コーリー・バーン＝ジョーンズ	『フラワーブック』より16点	1905年刊	リトグラフ・紙
サー・エドワード・コーリー・バーン＝ジョーンズ	キリストの昇天	1875	チョーク、墨・紙
サー・エドワード・コーリー・バーン＝ジョーンズ	アヴァロンにおけるアーサー王の眠り	1894	グワッシュ・紙

展示室2 日英美術交流



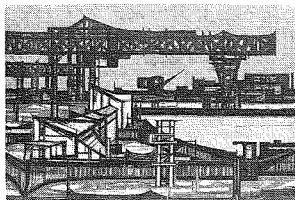
南 蕉造「日没」

日本の近代美術を考える上で、イギリスの美術は大きな存在となりました。「イラストレイテッド・ロンドン・ニュース」の挿絵画家として、幕末の日本を風刺的に描いたチャールズ・ワグマン。来日して日本の自然や風俗を水彩画にしたパーソンズ、イースト、ヴァーレー・ジュニア。日本人の画家の中には、彼等に影響をうけて洋画や水彩画を描いた人もいましたし、原撫松や栗原忠二、牧野義雄、南薫造など、イギリスへ留学して学んだ画家もいました。

また、バーナード・リーチは数回にわたり来日し、「白樺派」の芸術家たちと交流を持ち、日本の民芸運動にも大きな役割をはたしました。日本の画家たちがイギリスの美術から大きく影響を受けたのと同じように、イギリスや海外の芸術家の中には日本の美術に興味を持った人もいたのです。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
チャールズ・ワーグマン	西洋紳士スケッチの図	1870年代	油彩・スケッチボード
チャールズ・ワーグマン	水汲み		水彩・紙
チャールズ・ワーグマン	物売り		水彩・紙
ジョン・ヴァーレー・ジュニア	日光の茶屋	1890 (明治23)	油彩・板
ジョン・ヴァーレー・ジュニア	宮島の街並		水彩・紙
アルフレッド・イースト	雨の湯本	1889 (明治22)	水彩・紙
アルフレッド・ウィリアム・パーソンズ	鎌倉の茶店		グワッシュ・紙
栗原忠二	ハマースミス・ブリッジ		油彩・板
栗原忠二	オックスフォード		水彩・紙
原 撫松	霧の広場	1906 (明治39)	油彩・キャンバス
原 撫松	アルバートメモリアル	1906～7 (明治39～40)	水彩・紙
牧野義雄	ハイド・パークのアギレス像		油彩・キャンバス
武内鶴之助	虹 (英国牧場風景)		油彩・キャンバスボード
武内鶴之助	英国風景		油彩・キャンバス
武内鶴之助	ウィンザー城		パステル・ボード
石川欽一郎	ロンドン・テムズ河岸ハマースミス	1917 (大正6)	水彩・紙
南 薫造	川べりから見た風景		水彩・紙
南 薫造	日没		水彩・紙
フランク・ブランギン	市場		エッチング・紙
バーナード・リーチ	きこり		油彩・紙
バーナード・リーチ	山水	1968 (昭和43)	ペン、筆・紙
バーナード・リーチ	立杭		コンテ・紙
バーナード・リーチ	家	1912 (明治45・大正元)	エッチング・紙
バーナード・リーチ	北京の前門	1918 (大正7)	ソフトグランドエッチング・紙
バーナード・リーチ	鉄絵茶碗		ストーンウェア
バーナード・リーチ	白磁魚絵皿	1962 (昭和37)	磁器
浜田庄司	鉛釉花打茶碗		陶器
有島生馬	少女	1908 (明治41)	油彩・キャンバス

### 展示室3 郡山ゆかりの作家たち



黒沢吉蔵「河の附近の風景」

郡山市立美術館では「郡山ゆかりの美術」を収集の柱の一つとしています。今回は、彫刻と洋画を中心にご覧いただきます。郷土の作家の業績にあらためて接していただければと思います。

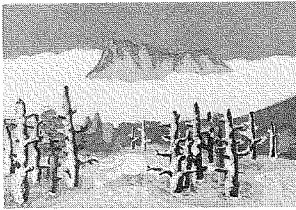
#### ●黒沢吉蔵追悼展示

郡山市出身の日本画家黒沢吉蔵氏が、本年2月22日、80歳で永眠されました。黒沢氏は、美術界はもちろんのこと本市フロンティア大使としてもご活躍され、作品は郡山市立美術館をはじめ多くの公共機関に収蔵されています。

黒沢氏の功績を顧みるとともに、深く哀悼の意を表します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	寄贈
三木宗策	大葉子	1942 (昭和17)	木彫	萩原巖氏寄贈
三木宗策	威容抱慈 (坂上田村麻呂像)		木彫	
佐藤静司	合掌	1986 (昭和61)	木彫	
鎌田正蔵	ロボット家族 (B)	1982 (昭和57)	アクリル・キャンバス	
佐藤昭一	コンポジション	1959 (昭和34)	油彩・キャンバス	
土橋 醇	イル・ド・フランス	1956 (昭和31)	油彩・キャンバス	
黒沢吉蔵	ガスタンクのある風景	1956 (昭和31)	紙本着色	黒沢吉蔵氏寄贈
黒沢吉蔵	河の附近の風景	1956 (昭和31)	紙本着色	黒沢吉蔵氏寄贈
黒沢吉蔵	冬	1964 (昭和39)	紙本着色	黒沢吉蔵氏寄贈
黒沢吉蔵	霽れる高地	1968 (昭和43)	紙本着色	
黒沢吉蔵	晩秋の山河	1975 (昭和50)	紙本着色	
黒沢吉蔵	大和箸中	1980 (昭和55)	紙本着色	

## 展示室4① 創作版画の魅力



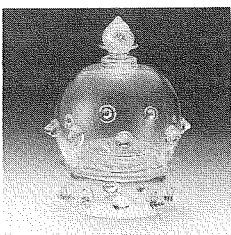
畦地梅太郎「上高地」

江戸時代に生まれた日本の浮世絵版画は、絵を描く絵師、版を彫る彫師、版の色摺りを行う摺師という分業によって制作されていました。その流れを汲む木版錦絵は、明治時代になっても同じ形式がとられていましたが、安価で大衆向けの複製印刷となり、そこに新たな創作活動を見いだすことは少なくなりました。それに対して、自画・自刻・自摺といって、原画を描き、版を彫り、紙に摺る課程を、すべて作家がひとりでこなす版画があります。それが創作版画です。

独立した絵画芸術としての独自性を模索し、もう一度「画家」の主導による「版画」を生みだそうとするところに、創作版画の深い意義があったのです。明治30年代に登場した日本の創作版画は、大正から昭和前期にかけて大きなブームを迎えていきました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
『HANGA』第壹輯より	平川清蔵「失題」	1924(大正13)	ポートフォリオ
『HANGA』第二輯より	石井鶴三「裸婦浴後」	1924(大正13)	ポートフォリオ
	山内神斧「瓶」		
『HANGA』第三輯より	萬鉄五郎「ヴェールの人」	1924(大正13)	ポートフォリオ
	塚本しげる「反逆者」		
『HANGA』第四輯より	渡辺進「信濃路」	1924(大正13)	ポートフォリオ
	藤木喜久麿「島の女」		
『HANGA』第五輯より	藤森静雄「窓」	1924(大正13)	ポートフォリオ
	平川清蔵「水道橋付近」		
『HANGA』第六輯より	旭正秀「新聞読む人」	1924(大正13)	ポートフォリオ
	森山収二「春日清遊」		
『HANGA』第七輯より	間部時雄「マントの橋 佛国」	1924(大正13)	ポートフォリオ
	藤田嗣治「無題」	1924(大正13)	ポートフォリオ
『HANGA』第八輯より	河野道勢「無題」	1924(大正13)	ポートフォリオ
	織田一麿「大佛殿」	1924(大正13)	ポートフォリオ
『版芸術』創刊号より	前川千帆「林檎と娘」	1932(昭和7)	木版/本
『版芸術』第十七号より	川上澄生「レダ」	1932(昭和7)	木版/本
『版芸術』第五号より	藤森静雄「静日」	1932(昭和7)	木版/本
『版芸術』第八号より	中田一男「ジャワの影絵人形」	1932(昭和7)	木版/本
川西 英	『曲馬写生帖』	1934(昭和9)刊	木版・紙/本
川西 英	『カルメン』	1934(昭和9)刊	木版・紙/本
小野忠重	銀座裏	1934(昭和9)	木版・紙
牛島憲之	瓦焼	1945(昭和20)	木版・紙
谷中安規	鍵(詩画集の8)	1933(昭和8)	木版・紙
水船六州	裸婦		木版・紙
畦地梅太郎	上高地		木版・紙
織田一麿	本郷龍岡町(『東京風景』から)	1917(大正6)	石版・紙
木下孝則	読書	1938(昭和13)	エッチング・紙
有島生馬	ハノヴィン祭(ハロウィン)	1936(昭和11)	エッチング・紙
長谷川 潔	シャトー・アルヌーの寺院	1932(昭和7)	メゾチント・紙
川上澄生	『文明開化往来』書窓版画帖十連聚其三	1941(昭和16)	木版・紙/本
逸見 享	『水韻譜』書窓版画帖十連聚其七	1942(昭和17)	木版・紙/本
前川千帆	『新野外小品』書窓版画帖十連聚其四	1942(昭和17)	木版・紙/本

## 展示室4② ガラスの加飾



佐藤潤一郎

「奈良・薬師寺玄奘三蔵院舍利器カパー(控)No.1」

技法のうえから見たガラス工芸の制作過程は、大きく分けて2段階あります。まずは本体を形作ることで、これを「成形」といいます。宙吹き、とか、型吹きとか、キャストイング( casting ) ( 鑄造 ) とかが成形の代表的な技法です。そのあと、成形された本体に様々な装飾を施してゆくことを「加飾」といいます。

加飾の技法には、「付ける」「削る」「着色する」「成形と同時にする」などの方法があります。「付ける」にはプランツやカレットの封入、「削る」にはカット(切り)やグラブユール、サンドブラストなどの技法があり、本来透明なガラスに色を着ける「着色」や、型を押しつけるサンドキャストなどもあります。

今回は、この「加飾」の様々な技法にスポットをあてて作品を並べてみました。それぞれの技法の特徴による造形美をお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	寄贈
●着色ガラス				
佐藤潤四郎	ブルー花器		宙吹き・被せガラス、カット	
クリストファー・ドレッサー	花瓶（赤色クルーザ・ガラス）		ガラス	
クリストファー・ドレッサー	瓶（茶色クルーザ・ガラス）		ガラス	
クリストファー・ドレッサー	瓶（緑色クルーザ・ガラス）		ガラス	
●サンドブラスト・エッチング				
佐藤潤四郎	花器・仏足跡ロータス		宙吹き・サンドブラスト	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	オブジェ・仏足跡	1984（昭和59）頃	サンドブラスト	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	オブジェ	1984（昭和59）	サンドブラスト	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	花器・アダムとイヴ		宙吹き・エッチング	
●プランツ				
佐藤潤四郎	ルーマー杯・なみなみのワインを		宙吹き・グラヴェール、プランツ	
佐藤潤四郎	ルーマー杯（グリーン）		宙吹き・プランツ	長谷川貴子氏・石川和子氏寄贈
佐藤潤四郎	水指（プランツ）	1986（昭和61）	型吹き・プランツ	
佐藤潤四郎	奈良・薬師寺玄奘三蔵院舍利器カバー（控）No.1	1984（昭和59）	宙吹き・プランツ、雲母封入	
●封入・融着				
佐藤潤四郎	舍利器		宙吹き・気泡封入・プランツ	
佐藤潤四郎	花器		宙吹き・雲母封入・プランツ	
佐藤潤四郎	花器		宙吹き・カレット封入	
佐藤潤四郎	舍利器		宙吹き・カレット融着	
佐藤潤四郎	花器		宙吹き・雲母封入	
●カット				
佐藤潤四郎	花器	1986（昭和61）	型吹き・エッチング、カット	
佐藤潤四郎	舍利器		宙吹き・カット	
佐藤潤四郎	奈良・薬師寺玄奘三蔵院舍利器（控）No.1	1980（昭和55）	宙吹き・カット	
佐藤潤四郎	花器・穴があいてちょっと考えた		宙吹き・カット	
●グラヴェール				
佐藤潤四郎	大杯・ワインを造る		宙吹き・グラヴェール	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	大杯・ガラスを吹く人		宙吹き・グラヴェール	
佐藤潤四郎	ワイングラス		宙吹き・グラヴェール	佐藤久枝氏寄贈
各務鏡三	クリスタル花器《鱗影》	1970（昭和45）頃	宙吹き・気泡封入、グラヴェール	田淵十一氏寄贈
佐藤潤四郎	瓶		宙吹き・グラヴェール、プランツ	
佐藤潤四郎	花器・一寸考えて		宙吹き	
佐藤潤四郎	花器・ちょっと考えて（樹）		宙吹き・グラヴェール	
●サンドキャスト				
佐藤潤四郎	硯屏・いのしし	1966（昭和41）頃	サンドキャスト	木村四郎氏寄贈
佐藤潤四郎	ペーパーウエイト・ベガサス		サンドキャスト	木村四郎氏寄贈
[参考出品]				
佐藤潤四郎	「硯屏・いのしし」の雄型	1966（昭和41）頃	耐火粘土	木村四郎氏寄贈
佐藤潤四郎	「ペーパーウエイト・ベガサス」の雄型		耐火粘土	木村四郎氏寄贈

## ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質	寄贈
●1階エントランス				
柳沼曹雲	陽		石膏	柳沼薫氏寄贈
●1階展示ロビー				
細川宗英	装飾古墳シリーズ9	1963（昭和38）	セメント	細川明子氏寄贈
アントニー・ゴームリー	領域Ⅷ	2000	ステンレス、スチール棒	
アントニー・ゴームリー	量子雲ⅩⅢ	2000	ステンレス、スチール棒	
●1階サブエントランス				
笠置季男	躍進	1958（昭和33）	セメント	
●2階展示ロビー				
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡1・2		陶器	寄託作品
佐藤潤四郎	石で仏足跡		石	寄託作品
柳原義達	女の首	1958（昭和33）	ブロンズ	
アリスティード・マイヨール	もの思い	1930	ブロンズ	大高善二郎氏寄贈
高田溥厚	アラン像	1932（昭和7）	ブロンズ	
清水多嘉示	フランスの女	1927（昭和2）	ブロンズ	
●屋外				
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	